



地域と医療のコラボレーション

第27号
January
2014

HIGASHI OMIYA

ハモニ

Harmony

発行/医療法人社団協友会 東大宮総合病院
編集/広報委員会
〒337-0051 さいたま市見沼区東大宮5-18
TEL.048-684-7111 FAX.048-686-3614
<http://www.higashiomiya.or.jp/>

特集

臨床研修医育成の

取り組み

臨床研修センターセンター長

風間博正

当

院で初めて初期臨床研修医を受け入れたのは、8年前です。

研修医を育てることが、各々の医師の診療体制を振り返るきっかけとなり、結果として当院の医療の質を高めることにつながると考えたからです。そしてさらなる研修プログラムの充実を図るべく、昨年の4月から正式に臨床研修センターを発足させ、センター長として専属のスタッフと共に日々奮闘しているところでです。

現在日本では、大学を卒業し、国家試験に合格した医師は、2年間の臨床研修が義務づけられています。最近では、大学病院より民間の臨床研修病院を希望する学生が増えており、約55%の学生が民間病院での研修を選択しています。

その中でも学生に人気なのは、東京や神奈川・大阪など大都市に集中しています。埼玉県では、残念ながら採用可能枠全員のフルマッチをする病院は、少ないのが現状です。その中でもフルマッチする病院は、大学病院や大規模な病院がほとんどですが、幸いにも本年度は、念願のフルマッチをすることができセンター長として、ひとまずはほっとしています。

初

期研修の目的は、一つの専門領域に特化するのではなく、基本的な臨床能力(知識・技能・態度・情報収集・総合判断能力)を習得することに重点を置いています。当院は、総合病院として、頻度の高い疾患(common disease)を多く診ることができ、また当院の良さのひとつに、各診療科の垣根を越えた連携があり、アットホームな雰囲気があります。臨床経

験7年目以上の医師には、厚生労働省の指導医講習会を受講してもらっており、現在は常勤医師の約8割が指導医になっています。この数字は、全国的にもかなり高い割合です。そのため、研修医にもマンツーマンで指導することができ、多くの経験を積むことができることも当院の強みと考えています。研修医への学びの場の提供としては、指導医が研修医に講義をするモーニングレクチャーや、研修医の発表の練習としてランチョンセミナーを定期的に開催し、活発な討議が日々行われています。

これからの医療は、医師が中心ではなく、患者が中心のチーム医療が必要です。そのためにも研修医たちにはコミュニケーションスキルをぜひとも身につけてほしいと願っています。研修医たちには、病院行事や学会などへの積極的な参加を促しています。昨年暮れの院内忘年会の余興では、最近話題の「恋するフォーチュンクッキー」を指導医と研修医で踊りました。2年間の間に、色々なことを経験し、対人能力を身につけてほしいと考えています。

今

年の新たな取り組みとしては、当院の研修プログラムを再評価する指標にするため、基本的臨床能力評価試験を研修医全員が受ける予定です。また当院の研修プログラムが、社会が要請する医師像を目指す研修プログラムであるかどうかを第三者機関に評価してもらう「卒後臨床研修評価機構 JCEP」も受ける予定です。

数年後には、埼玉県で研修したい病院ランキング1位になることを目標に、これからも新しいことにチャレンジし続けていきたいと思っています。



診療科だより

眼科



眼科 医師 平松 類

あけましておめでとうございます。当眼科は白内障手術のみならず緑内障手術、硝子体手術（網膜剥離など）を行っています。近郊のみならず、遠方からも多くの患者さまがいらつしゃいます。特に緑内障手術は特殊な資格が必要なトラベクトームという手術を行っています。

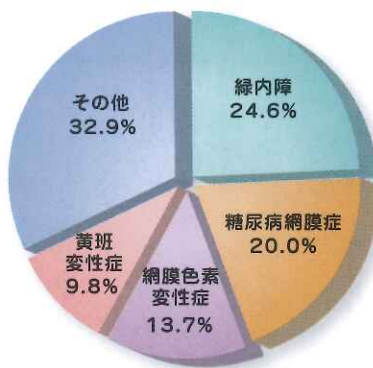
失明原因1位の緑内障

緑内障（りよくないしよう）という病気をご存知でしょうか？

日本での失明原因1位であり、日本人の40歳以上の20人に1人がなる病気です。この病気は末期になるまで病気であることに気づかず、気づいたときには手遅れになっていることがある病気です。特に高齢になるにつれてこの病気になる方が多く、日常生活に大

きな支障をきたし、家族のサポートが必要な生活状況となつてしまいます。早めの発見と治療が必要です。また、ご家族に緑内障の方がいる場合、緑内障になりやすいので注意が必要です。緑内障は人間ドックにおける眼底検査でわかります。人間ドックを受ける際、一緒に眼底検査を受けることをお勧めします。

視覚障害の原因(割合)



人間ドック時、一緒に「眼底検査」もお勧めします。



緑内障の治療

緑内障と診断されると、まずは目薬の治療が始まります。眼圧（目の固さ）を下げて、悪化を防いでいきます。目薬にはいろいろな種類があります。人に

よつては合う合わないがありますので、患者さまに合った状態で目薬をしていく必要があります。長く使う目薬なので、正しい使用法で忘れずに目薬をしましょう。

緑内障の手術

目薬でも治療が難しい患者さまの場合は、手術での治療となります。当院では、トラベクトーム手術、線維柱帯切除術、エキスプレス手術、バルベルトインプラント手術が可能です。特にトラベクトーム手術は、埼玉県内唯一の指導医である平松医師が行っています。従来では1時間ほどかかった手術が、短時間にかつ安全に行える状況となりました。

緑内障の手術は目に小さな穴を開けて、目の玉の中の水を外へ排出する手術が主に行われます。これも眼圧（目の固さ）を下げるのが目的です。

眼圧検査は通常の診療でも行われる一般的な検査です。空気が目にあたるような機械を使って固さを測ります。心配な方はお気軽に眼科医師へご相談ください。

目薬の仕方



①手をよく洗う



②下まぶたを軽く引き、点眼する



③点眼後は、まぶたを閉じ、目頭を軽く押さえる(1分間程度)



④あふれた点眼液は清潔なティッシュペーパーなどでふき取る

全日病学会参加記

第55回 全日本病院学会 in 埼玉

副看護部長 林 勝枝



昨年、11月2、3日の両日、さいたま市で第55回全日本病院学会in埼玉が2000人を超える参加者を迎えて盛大に開催されました。当法人の理事長である中村康彦が学会長となった今大会では、当院からは11演題、9セッションの座長をはじめ、50名が参加しました。

この大会は、「地域医療を担う我ら ~埼玉から日本へ発信~」というテーマを掲げ、地域医療に従事してきた私達とその貴重な体験を、学会発表という形で全国へ発信できると同時に、学習できる良い機会でした。今後も、多くの患者さまを笑顔にできる医療の提供が実現できるよう、努力して参りたいと思います。



セッション	演題名	発表者
学会企画Ⅲ	がん患者の栄養療法	神田大輔
医師事務作業補助	医師事務作業補助者による問題解決 ~支援提供体制の構築プロセスから見る必要なスキル~	藤原典子
感染防止2	ノロウイルス伝播によるアウトブレイクの経験	上田貞子
医療安全4	ヒヤリハットの口頭発表による情報共有が 事故件数と内容に及ぼす効果	市橋未紀
健診3	「乳がん検診受診率向上の取り組み」 ~受診勧奨を見直そう!~	大下香織
放射線部門1 【CT①】	インジェクターを使用した造影CT検査時の 血管外漏出減少に向けた取り組み	原田直紀
病院事務管理 2【人事】	年次有給休暇取得率向上の取り組み	中村哲子
業務改善4	新人看護師獲得に向けた当院の取り組み	林 勝枝
機能評価・ISO	AMQI診療情報管理部会の取り組み	朝見浩一
ポスター 薬剤	「病棟薬剤業務実施加算」がもたらす薬剤師への課題の検討	関根仁彦
ポスター 透析	クリアランギャップを用いたバスキュラーアクセス管理	吉原天心

がんセンターボード開催

がんセンター センター長 多田正弘

がんセンターボード(cancer board:がんの評議委員会)とは、がん診療に関する問題に対応する院内の組織のことです。内科、外科、放射線科、病理診断科などの専門領域の医師がみんなで一人のがん患者さまの治療法を包括的に議論、検討する会議のことを言います。すなわち、それぞれの専門家が意見を出し合って、患者さまの症状、状態に応じた最適な治療法を決定する会議です。これは、個々の患者さまにとって質の高い医療を提供するために不可欠であり、埼玉県がん診療指定病院にその設置が義務づけられています。当院もがん診療指定病院の認可を受けており、平成25年7月29日よりがんセンターボードを継続的に開催しています。当院におけるがん診療の問題点の検討ならびに、がん症例の最適な治療法を中心に会議を行っています。このように、当院で癌と診断された患者さまは、多くの専門家の意見を総合して治療方針が決められていますので、安心して治療を受けていただければと思っています。



電子カルテシステム導入

当院では平成26年2月1日(土)より、電子カルテシステムを導入いたします。

医療レベルの向上、システムの合理化など、患者さまに多大なメリットをご提供するために、現在、電子カルテシステムの稼働に向け準備を進めております。

システムのスムーズな運用に努めますが、導入当初は多少の混乱が見込まれ診察時間・待ち時間が長くなることが予想されます。また、電子カルテのシステムトラブルを防ぐ為に万全の体制を整えておりますが、システムに問題が発生した際には、やむを得ず病院職員以外の電子カルテシステム会社のスタッフが、診察室内に立ち入る場合がございます。その際には、ご理解とご協力をお願いいたします。

患者さまへの医療サービスの向上のため、今後とも努力してまいります。何卒ご理解を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

新病院プロジェクト

建築工事が始まりました！

昨年11月7日に地鎮祭を無事に終え、平成27年6月竣工に向けて建築工事が始まりました。移転先はJR土呂駅より徒歩10分の場所となります。

今後も広報誌を通じて、進捗を発信してまいります。なお、この新築移転工事の詳しい情報は当院ホームページの特別サイトからもご覧いただけます。



新病院エントランス(イメージ)



もう
お済みですか？

平成25年度 さいたま市住民健康診査

今年度の受診期限は3月8日(土)までとなっています。特定健康診査受診券やがん検診の案内はがきをお持ちの方で、まだ受診されていない方は早めの受診をお勧めします。

予約が必要な検査は、胃がん検診(胃内視鏡検査希望の方)、乳がん検診、子宮がん検診です。年度末は予約が集中しますので、早めの予約をお勧めします。

年に1度、健康状態の把握と健康保持・増進および、疾患の早期発見・早期治療にぜひお役立てください。

検診予約・お問い合わせ先

健康管理課 TEL.048-684-2278

編集後記

あけましておめでとうございます。
今年で院外広報誌「ハーモニー」は10周年を迎えます。
これを機にデザインをリニューアルしました。
これからも情報発信していく「ハーモニー」を、
どうぞよろしくお願ひ致します。

当
院

数字アラカルト

外来患者数	742.7人/日
入院患者数	290.9人/日
在院日数	15.8日
ベッド稼働率	92.7%
救急件数	392.3件/月
手術件数(全麻・腰麻)	100.8件/月
心臓カテーテル検査件数	20.8件/月
内視鏡件数	826.0件/月

平成25年8~11月平均



JR宇都宮線「東大宮」駅下車 東口より徒歩3分



医療法人社団協友会

東大宮総合病院

〒337-0051 さいたま市見沼区東大宮5-18
TEL.048-684-7111 FAX.048-686-3614

東大宮総合病院

検索